

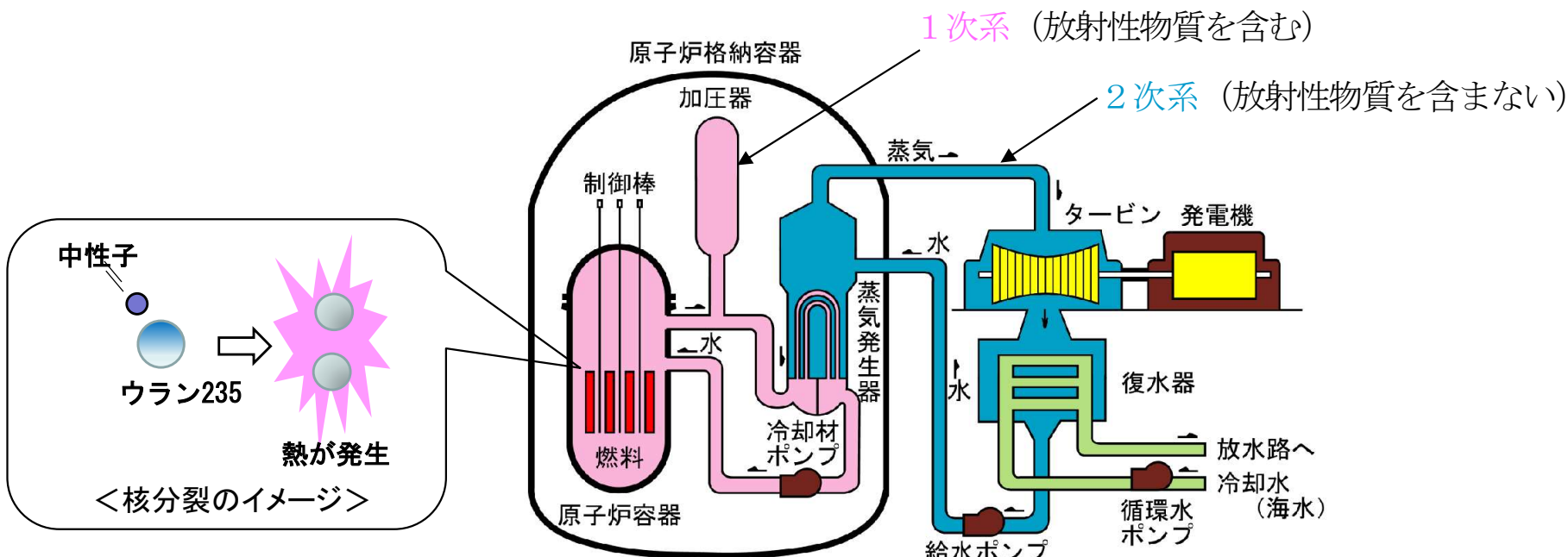
玄海原子力発電所の運転状況等について

2023年8月7日
九州電力株式会社

1. 原子力発電所とは

○原子力発電所では、燃料のウランが核分裂する際に出る熱の力を利用して蒸気を作り、その蒸気でタービンを回して発電を行います。

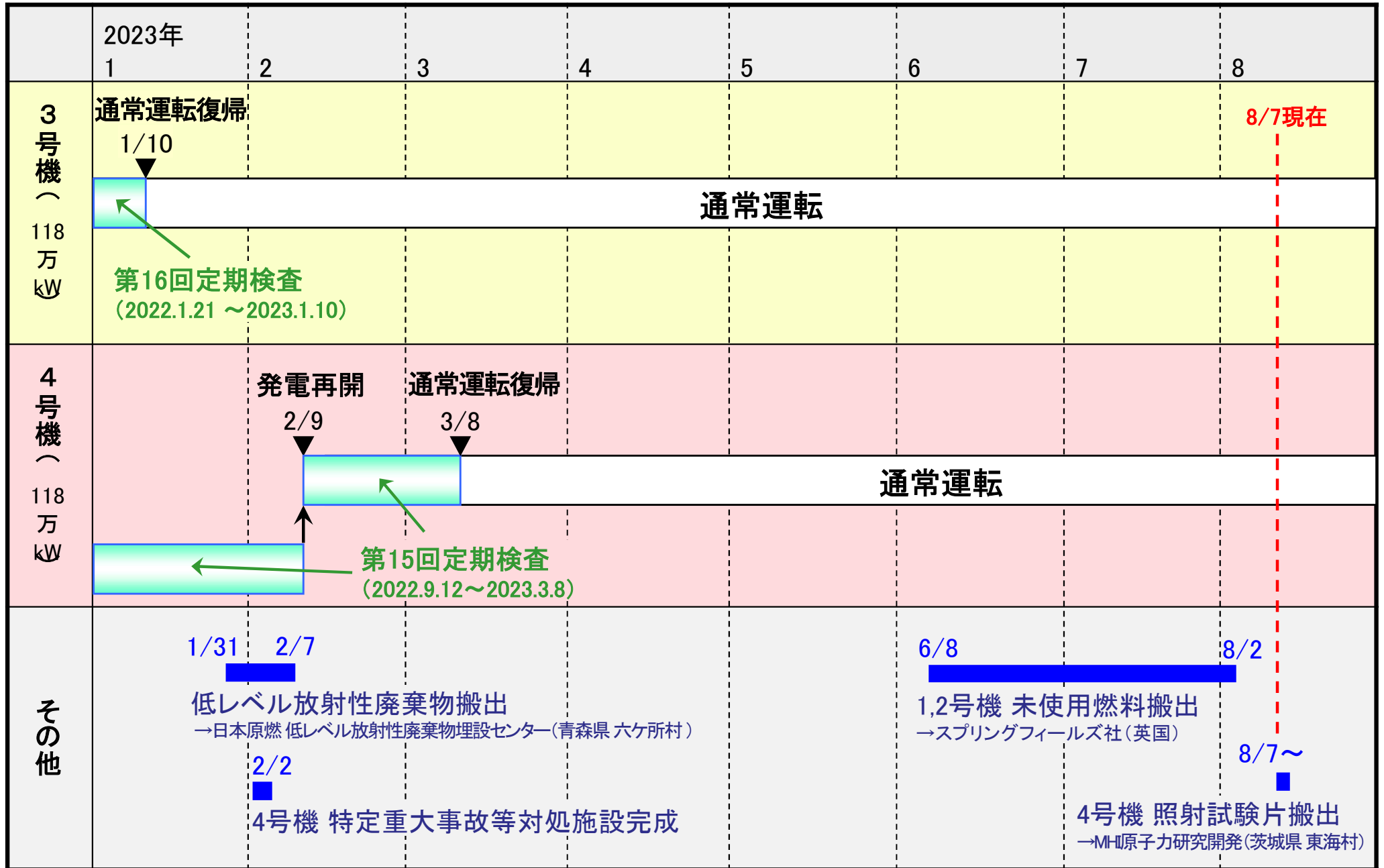
○約1年(13か月)に1回、発電所の運転を止めて定期検査を行い、発電所の設備を安全な状態に維持し、異常の発生を未然に防止することにより、発電所の安全・安定運転を継続しています。



[加圧水型軽水炉 (PWR) の特徴 (玄海原子力発電所で採用)]

原子炉周りの水 (ピンク : 1次系) と、タービンを回す蒸気をつくるための水 (青色 : 2次系) を分離しています。

1. 経過(2023年1月～)



参 考

(1) 3、4号機の発電状況(2022年4月～2023年3月)

	3号機	4号機	合計
定格電気出力 (MW)	1,180	1,180	2,360
発電電力量 (億kWh)	31.2	39.1	70.2
利用率※ (%)	30.2	37.8	34.0

※ 利用率 = $\frac{\text{(発電電力量)}}{\text{(暦時間)} \times \text{(定格電気出力)}} \times 100(\%)$

(2) 放射性廃棄物の管理状況(2022年4月～2023年3月)

① 気体・液体廃棄物の放出量

種類	放出量 (ベクレル)	放出管理目標値 (ベクレル/年)
気体廃棄物	定量限界未満(※)	1.0×10^{15}
液体廃棄物	定量限界未満(※)	7.5×10^{10}

(※) 定量限界未満: 測定の結果、放射性物質の量が検出できる下限値未満

② 固体廃棄物の保管量(2023年3月時点)

	貯蔵量 (200リットルドラム缶相当)	貯蔵設備容量 (200リットルドラム缶相当)
原子炉施設合計	38,719本	約49,000本

(3) 燃料輸送等の状況(2022年4月～)

① 新燃料(取替用燃料)の搬入 該当なし

② 新燃料(未使用燃料)の搬出

搬出(出港)年月日	体数	搬出元	搬出先	輸送手段
2023年6月8日	28体	1号機	英国スプリング フィールズ社	船舶
	12体	2号機		

③ 使用済燃料の搬出 該当なし

④ 使用済燃料の構内運搬 該当なし

⑤ 低レベル放射性廃棄物の搬出

搬出(出港)年月日	搬出量 (200リットルドラム缶)	搬出先	輸送手段
2023年1月31日	1,720本	日本原燃(株)	船舶